

VISTA 7 ユーザーレポート

中京テレビ放送株式会社 様

VISTA 7



3台目のVISTAでMA1を更新



中京テレビ放送株式会社
技術局 制作技術部
長谷川 卓也

4台目のSTUDERコンソールの導入

中京テレビでは、Bサブの「D950M2」(2000年導入)、第2MA室の「VISTA 7」(2002年導入)、そしてAサブの「VISTA 6」(2005年導入)に続き、ナント4台目のSTUDER社のデジタルコンソール「VISTA 7」を第1MA室に導入しました。

コンソール選択の背景

今回更新したのは、老朽化が目立ち始めた第1MA室。まず、MAのコンソールを「オートメーション付きのミキサー」と考えるのか、「DAWのフィジカルコントローラー」と考えるのか…。これは



金額的にも大きく違ってくる重要な選択で、今回の更新の中で最も悩んだ部分でした。結果として、MA室は音の最終段なのでとことん「音」にこだわりたい。さらに、導入後10年以上バリバリ働いてもらわなければいけない事情を考慮し、ちょっと高価ではありましたが「VISTA 7」を選択しました。STUDERのデジタル卓の「音質」「操作性」「安定性」の高さは、すでに導入した3台のコンソールで十分実感済み。特にSTUDERご自慢の「VISTONICS」画面は、その「分かり易さ」とストレスフリーの「作業のし易さ」に、一度触るともう他のデジタル卓では作業できません。VISTA 7のオートメーション機能についてもオペレーターがメーカー担当者以上に(!)熟知していた事は選択の大きな理由でした(笑)。また、導入済みの3台のコンソールと予備パーツが共有出来ることは、導入後のトラブル対策や保守に大きなメリットがあると考えました。

ちょっとしたこだわり

「リサーチ」→「ロケ・収録」→「編集」と、長く険しい番組制作の道のりを経て、やっとたどり着くことが出来るのがMA室。世界で一番先に完成した作品を見ることが出来る部屋がMA室なのです。ならば「音はモチロンいいけど、カッコよくて居心地のいい部屋を作ろう」の合言葉の

元、壁のクロスから床の材質、照明、ソファーに至るまでとことんこだわりました。日東紡音響様には広い心でこちらの要望を受け止めていただき、とてもよい部屋が出来たと思います。

システム設計の目玉

今回の更新で一番の目玉は、2部屋のMA室を完全に同じ音声システムにしたことです。今回の第1MA室と、既に導入済みの第2MA室(若干の改修を掛けました)のI/Oの数やアウトボードの種類、コンフィグなどを揃えました。これにより、作業の続きや直しがどちらの部屋でも出来るようになり、部屋の効率的な利用が可能になりました。また今後の野望としては、2台のVISTAをLANで結んで、共有フォルダでファイルを管理し、更なる作業効率の向上を目論んでいます。

